専門演習　　一戸 真子

授業概要

地球を取り巻く諸環境が激変する中で、私達の生活も大きな変化を余儀なくされている。人類の未来はどのように変化していくのかについて、人類の辿ってきた歴史的な変遷を振り返りながら、現代社会が抱える諸問題の理解、およびすべてが加速するとされる 2030 年に向けたイノベーションについて理解を深めることを本演習の目的とする。また、就職活動の開始や、大学院を目指し更に深く探求するなど、自身のキャリアパスを描き、卒論作成まで続く 2 年間の集大成の演習の開始年である本演習が、より充実した実りある、楽しい時間となるよう、最新の社会情勢を取り上げながら、丁寧に指導する。

授業計画

第１回	2030 年は何をしている？	第 16 回	モバイルヘルス
第２回	2030 年はどんな社会になっている？	第 17 回	ユーチューブとスーパークリエイター
第３回	人類の辿ってきた途を振り返る	第 18 回	ディープフェイクとリアルフェイク
第４回	止むことのない数々のテクノロジー	第 19 回	ブロックチェーン
第５回	仮想現実・拡張現実	第 20 回	クライド保険・クラウド融資
第６回	進化する人工知能	第 21 回	アグリテック
第７回	家族の一員としてのロボット	第 22 回	バーチャル世界
第８回	アバター	第 23 回	火星への移住
第９回	３Ｄプリンタの普及	第 24 回	宇宙戦争
第 10 回	自動運転・空飛ぶ車	第 25 回	メタ知能の出現
第 11 回	量子コンピューティング	第 26 回	非収益化・非物質化
第 12 回	ロボット外科手術	第 27 回	デジタル化
第 13 回	ナノテクノロジー・バイオテクノロジー	第 28 回	破壊
第 14 回	オーダーメイド医療	第 29 回	様々なテクノロジーの融合（コンバージェンス）時代の到来
第 15 回	ブレイン・コンピュータ・インターフェース	第 30 回	まとめ
		第３1回	試験

到達目標

- 最新の社会・経済用語を説明できる。
- 未来志向で物事を創造することができる。
- 課題の抽出および具体的な解決方法を検討することができる。
- チーム力を修得し、発揮することができる。
- 一つの課題を掘り下げ、個別テーマを絞りこむことができる。
- グローバルな視野で物事を客観的に分析することができる。

履修上の注意

就職試験にも役立つ教養や最新のテーマに関する知識を修得できるようテキストを選定していますので、自分の将来のキャリアパスを描き、実現に近づけるよう、積極的に自己学習するようにしてください。

予習復習

勉強することが多いので、事前学習（1 時間半程度）及び各単元後の復習（1 時間程度）が必要。

評価方法

試験（最終レポート含む）60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

- 著者名：ピーター・ディアマンディス&スティーブン・コトラー著
- 教科書名：『2030 年すべてが加速する世界に備えよ』
- 出版社名：ニューズピックス　　2400 円
- 出版年：2021 年（ISBN：978−2910063133）

- 著者名：日経 HR 編集部編著
- 教科書名：『日経キーワード 2025-2026』
- 出版社名：（株）日経 HR　1430 円
- 出版年：2024 年(ISBN:978-4296123070)

専門演習　　大塚 浩記

授業概要

専門演習では，まず，企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』を使用して，企業が開示する情報を具体的に理解することから始める。そして，ゼミ生が考える社会的課題をまとめたうえで，その課題解決に貢献する企業を探す，という流れで演習を進める。
基本的には，ゼミ生がレジュメを作成し，プレゼンを行う形式を予定している。履修者の人数にもよるが，例年，秋期にはグループワークによるレポート作成コンテスト（学外主催）への投稿を行う指導をしている。
また，就職活動の準備には，筆記試験（SPI など）やグループワークがゼミ活動としては欠かせないと考えているため，適宜，それらにかかわる内容を指導する。

授業計画

第１回	ガイダンス・上場企業について	第 16 回	夏季休業期間中の課題の報告
第２回	上場企業の選択と下調べ	第 17 回	上記報告を踏まえた課題の討論
第３回	有価証券報告書の概要	第 18 回	各自の社会的課題に関連する討論
第４回	主要な経営指標①（各種伸び率など）	第 19 回	チームの社会的課題に関連する討論
第５回	主要な経営指標②（利益率・ｷｬｯｼｭﾌﾛｰなど）	第 20 回	スクリーニング基準の検討
第６回	沿革と事業の内容	第 21 回	第１スクリーニング基準の検討
第７回	企業集団など	第 22 回	上記基準を適用した企業選定
第８回	経営の基本方針	第 23 回	第２スクリーニング基準の検討
第９回	業績の概要	第 24 回	上記基準を適用した企業選定
第 10 回	対処すべき課題	第 25 回	仮想資金の投資先の決定
第 11 回	事業リスク	第 26 回	仮想資金の投資金額の配分
第 12 回	秋期テキスト（前半）の輪読	第 27 回	レポートの完成・提出
第 13 回	秋期テキスト（後半）の輪読	第 28 回	プレゼンテーション準備や資料作成
第 14 回	各自が考える社会的課題の報告	第 29 回	プレゼンテーション
第 15 回	まとめと第 16 回に向けてのガイダンス，夏季課題のガイダンス	第 30 回	専門演習の振り返りと結び付けた春期休業中の就職活動に関する指導
第 16 回	上記の概要をまとめたレポート提出	第 31 回	プレゼンをまとめたレポート提出

上記項目は目安であり，進度や人数により適宜変更・調整する。

到達目標

・『有価証券報告書』における「企業の概況」「事業の状況」の記載内容を知ることができる。
・自らがテーマを探し，そのテーマについて共同作業でレポートを完成させる。
（共同作業なのでチームにおける自分の役割を理解し，積極的に討論に参加する。）

履修上の注意

・専門演習は卒業までの２年間にかかわるので，登録前に必ず面談し，担当者の意図を理解した上で選択すること。
・履修指導を含め，通常の演習時間以外の活動（例えば，キャリアセンター主催の行事）など就職活動にかかわる内容を積極的に指示する。また，他学年や他ゼミなどと合同で学内・学外授業を実施することがある。

予習復習

予習・春期：各自の選択した会社の『有価証券報告書』の指定部分の報告レジュメの作成。
　　・秋期：テーマに関する報告資料の検索と討論で説明・回答するための内容の検討。
復習・春期：報告レジュメに対する討論内容を反映したレポートの作成。
　　・秋期：テーマに対する報告内容についての共著レポートの作成。

評価方法

・グループワークにおける積極的な参加姿勢やレジュメ作成といった平常点（50%程度）および提出された課題（50%程度）を目安に評価する。

テキスト

春期は EDINET から出力する。秋期は学外主催のレポート提出企画に参加予定であり，ダウンロードする小冊子を使用する予定である（なお，受講人数が少なければ別にテキストを１冊購入する（書籍未定））。

専門演習　　塩谷 さやか

授業概要

この演習では、業界別に企業の位置付けや競争環境、成長戦略などを分析する。まず、業界ごとに代表的な企業や業界特有の特徴を紹介し、その後、各企業の市場シェアや業績、業界内での位置づけを理解できるよう指導する。この過程で、業界ごとの競争環境や市場動向、企業戦略を学ぶことができ、経済の全体像をつかむ力を養うことが出来る。また、「業界地図」を使って、業界ごとの成長性や将来性、リスクを予測する方法も学び、企業の戦略に対する理解を深める。これにより、日本の企業と業界の動向を理解し、実務的な視点を養うことが出来る。

授業計画

第１回	オリエンテーション	第16回	薬
第２回	自動車	第17回	娯楽エンタメ
第３回	機械	第18回	メディア
第４回	エレクトロニクス機器	第19回	建築
第５回	情報通信	第20回	不動産
第６回	インターネット	第21回	運輸
第７回	資源	第22回	物流
第８回	エネルギー	第23回	流通
第９回	素材	第24回	外食
第10回	金融	第25回	生活
第11回	法人サービス	第26回	公共サービス
第12回	食品	第27回	注目業界
第13回	農業	第28回	学生によるプレゼンテーション
第14回	生活用品	第29回	学生によるプレゼンテーション
第15回	嗜好品	第30回	学生によるプレゼンテーション
		第31回	学期末レポート

到達目標

これから伸びる業界がどこなのか自分で判断できるような内容としたい。気になる企業の業界内のポジションが一目瞭然に理解できる。「報道されたニュースで影響を受けた企業を調べておきたい。」などの疑問にも答えることができる。演習の後半では、自身の将来進みたい業界についてプレゼンテーションを行うことにより、業界の最新動向に触れ、実際の経済ニュースや企業戦略と照らし合わせることで、より実践的な知識を身につけることができる。

履修上の注意

学生と講師によるディスカッションを本演習では大切にしたいと考えている。

予習・復習

★事後学習として、演習で取り上げるケーススタディに関する課題レポートを課す。
★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。
★関心のある企業の「経営戦略」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や 「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。
★本講義では、学生と講師によるディスカッションを大切にしたいと考えている。

評価方法

1】学期末レポート（50%）2】プレゼンテーション（40%）3】講義への貢献度（10%）

テキスト

・教科書名：『「会社四季報」業界地図　2025年版』
・著 者 名：東洋経済新報社
・出版社名：東洋経済新報社
・出 版 年（ISBN）：2023（978―4492973332）
また、教員オリジナルの資料も使用する。

専門演習　　篠原 淳

授業概要

本演習では、企業会計理論の学習を対象として、特に国際会計の全般的、基礎的把握に努めて、各自の関心分野についての問題意識の形成、問題の構築、問題の分析を行う。特に、演習後半では、卒業論文の作成に備え、論文作成に必要な基礎（レジュメの書き方や発表の仕方）の取得も合わせて進める。

授業計画

春期では、国際会計の基礎的知識をマスターするために、関連資料を選定し輪読する。
秋期では、各自が関心をもつテーマについて報告と討論を行う。
また、各期３回以上のレポートの提出を求める。

第１回	国際会計の意義と研究領域	第 16 回	各自のテーマの報告と討論１
第２回	国際会計制度の沿革１（IASC）	第 17 回	各自のテーマの報告と討論２
第３回	国際会計制度の沿革２（IASB）	第 18 回	各自のテーマの報告と討論３
第４回	主要国の会計国際化１	第 19 回	各自のテーマの報告と討論４
第５回	主要国の会計国際化２	第 20 回	各自のテーマの報告と討論５
第６回	主要国の会計国際化３	第 21 回	各自のテーマの報告と討論６
第７回	IFRS の理論構造と特徴１	第 22 回	各自のテーマの報告と討論７
第８回	IFRS の理論構造と特徴２	第 23 回	各自のテーマの報告と討論８
第９回	IFRS の理論構造と特徴３	第 24 回	各自のテーマの報告と討論９
第 10 回	IFRS の要点解説（B/S 項目）	第 25 回	論文作成の基礎１
第 11 回	IFRS の要点解説（B/S 項目）	第 26 回	論文作成の基礎２
第 12 回	IFRS の要点解説（B/S 項目）	第 27 回	論文作成の基礎３
第 13 回	IFRS の要点解説（P/L 項目）	第 28 回	論文作成の基礎４
第 14 回	IFRS の要点解説（P/L 項目）	第 29 回	論文作成の基礎５
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ
		第 31 回	定期試験

到達目標

・発表レジメの作成と完成度を向上できる。
・卒業論文作成の基本を習得できる。

履修上の注意

・毎回必ず出席すること。
・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習・復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性（授業態度を含む）20%、レジュメ・発表のでき具合４０%、定期試験４０%

テキスト

・開講時に指示する。
・必要に応じて、プリントなどを配布する。

専門演習　　藤井 大輔

授業概要

現代社会には国内外にさまざまな解決すべき課題がある。その課題に対して、基礎演習での知見（学び）を活用し、定量的なデータの分析や定性的な観察・考察を通じて、社会合理的な課題解決策をプレゼンテーションやレポートという形で提示していくプロセスについて指導する。取り上げる課題の例には、▽シャッター通り対策▽高齢ドライバーの事故対策▽鉄道・バスの長期的な輸送需要減少▽新幹線網の拡充▽オーバーツーリズム対策▽人流・物流産業での人手不足▽大量の情報をシャワーのように浴び続ける社会問題などがある。

このプロセスでは、経済学や経営学のコアだけでなく、大学生としての総合的な学び・教養が必要である。これが「社会人基礎力の涵養」につながる。この演習ではそれらを「学ぶは楽しい」のモットーの下で培う。また、この演習では、基礎演習と縦断的に埼玉高速鉄道との産学連携プロジェクトも取り組む。

授業計画

第１回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンスと春期のふりかえり
第２回	交通サービス・観光サービスの基本	第 17 回	交通政策に関わる法律
第３回	交通の経済的規制(1)	第 18 回	マイナビ「課題解決プロジェクト」(1)
第４回	交通の経済的規制(2)	第 19 回	マイナビ「課題解決プロジェクト」(2)
第５回	交通・観光の社会的規制(1)	第 20 回	マイナビ「課題解決プロジェクト」(3)
第６回	交通・観光の社会的規制(2)	第 21 回	人口減少とまちづくり
第７回	政府・自治体からの補助(1)	第 22 回	まちづくり政策（人口減少対策）(1)
第８回	政府・自治体からの補助(2)	第 23 回	まちづくり政策（人口減少対策）(2)
第９回	政府・自治体の関与	第 24 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(6)
第 10 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(1)	第 25 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(7)
第 11 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(2)	第 26 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(8)
第 12 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(3)	第 27 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(9)
第 13 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(4)	第 28 回	ICT のさらなる進化に応じた政策変革
第 14 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(5)	第 29 回	卒業論文の準備(1)
第 15 回	ふりかえりと秋期の計画確認	第 30 回	卒業論文の準備(2)
		第 31 回	卒業論文の準備(3)とふりかえり

到達目標

(1) 交通を中心に観光やまちづくり、情報通信技術に関して、自ら資料などを収集し、意見交換、発表できる
(2) 埼玉高速鉄道との産学連携プロジェクトに取り組み、「社会人基礎力」の実践レベルを涵養することができる。
(3) 論文を作成するための基本的な作業を修得し、論文のテーマを設定できる

履修上の注意

(1) 能動的な演習形式であるため、履修生各自の“やる気”が最も問われる
(2) 埼玉高速鉄道との産学連携プロジェクト含む PBL（Project/Process Based Learning）を基本とする
(3) 原則として、ノートパソコンを持参する（毎回とは限らない、事前に告知する）
(4) 演習時間割以外の時間に活動し、その際に交通費など費用が発生することがある
(5) 履修生どうしの意見交換（ディスカッション）を重視する
(6) やむを得ない事由で欠席・遅参する場合は、必ず演習開始前までに連絡する（無連絡欠席を厳禁する）
(7) 休日を含む演習時間外での学習やさまざまな作業が想定される
(8) 専門演習では、大いに「失敗」してほしい。ただし、「同じ失敗」は許されない
(9) 履修生数や連携プロジェクトの進捗などにより、上記の授業計画を変更することがある

予習・復習

自分自身の興味・関心のあるところをさらに調べ、自分の考え、問題解決手法の提案などを表明できるよう、復習することが、次回への準備につながっていく（復習・予習 90 分）。

評価方法

①発表の準備状況 35%、②ディスカッションへの参加状況 35%、③論理的な意見表明 30%、の３点で評価する。ただし、成績評価には、出席ポイント 10.0pt 以上が必要条件である。

テキスト

必携するテキストを指定しない。ただし、テーマや必要に応じて演習中に紹介する。

専門演習　　文 智彦

授業概要

「経営戦略とリーダーシップ」をテーマとする経営学領域の演習である。
経営戦略とは、企業が存続発展するための重要な指針である。本演習では、将来社会で活躍できるビジネスパーソンを育成すべく、戦略やイノベーションについて書かれた文献を用いてその内容をじっくりと紐解きながら、「戦略とは？」、「戦略思考とは？」などを深く探究している。分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。
これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など社会に出ても役立つ基礎能力とともにリーダーシップを身につけるよう指導する。

授業計画

第１回	春期概要：経営戦略の理論を学ぶ	第 16 回	秋期概要：リーダーシップ
第２回	日本企業と破壊的イノベーション	第 17 回	リーダーシップと戦略的思考
第３回	イノベーションとは	第 18 回	リーダーシップとシステム思考
第４回	破壊的イノベーションとは	第 19 回	リーダーシップと戦略の策定
第５回	イノベーションのジレンマ	第 20 回	リーダーシップと戦略の実行
第６回	イノベーション・マネジメント	第 21 回	企画力：チームビルディング
第７回	発明とイノベーション	第 22 回	企画力：発想法
第８回	破壊と生存	第 23 回	企画力：ファシリテーション
第９回	破壊的イノベーションを起こす	第 24 回	企画力：ディスカッション
第 10 回	アイデアを生み出す	第 25 回	企画力：企画の実現
第 11 回	ニーズを探す	第 26 回	就活へ向けた業界分析
第 12 回	ブルーオーシャン戦略入門	第 27 回	就活へ向けた企業分析
第 13 回	ブルーオーシャン戦略実践ワーク	第 28 回	就活へ向けた職種分析
第 14 回	プレゼンテーション	第 29 回	就活へ向けた自己分析
第 15 回	総括	第 30 回	就活へ向けたグループワーク

第 31 回　筆記試験等（含むレポート）

到達目標

・経営戦略論の専門書を理解できる能力を身につけることができる。
・理解した内容をデータ化し解説できる能力を身につけることができる。

履修上の注意

・指定する経営戦略の専門書を購入する必要がある。
・新聞記事やネット記事を読み、その内容についてプレゼンテーションやディスカッションなどを行い、社会人基礎力を鍛える。これは就職活動にも役立つものである。

予習復習

・発表者は発表内容を文書化し全受講生は文献を精読して来ることが予習である。
・復習として授業の内容をデータ化する。

評価方法

・プレゼンテーション能力の向上によって評価する。
・この評価には読解力（３０％）・文章力（４０％）・発言力（３０％）の向上などを含む。

テキスト

授業内で指定する

専門演習　　工藤 悟志

授業概要

この演習では、経営学、特にイノベーションや組織の競争力の源泉（その組織にしかない強み）について検討、議論します。例えば、インスタントラーメンや QR コードなど身近な製品がどのように開発されたのか、ユニクロモデルなどのビジネスモデルの特徴はなにか、など学生が興味をもった製品やビジネスを調べて、発表をし、それについて全員でディスカッションをします。授業以外のゼミ・イベントは、企業訪問、夏合宿（軽井沢など）、他大学との合同ゼミなどを実施します。また問題解決型のビジネスコンテスト（希望者）に参加し、経営課題の解決案の立案を実践します。これらを通じて経営学の理論だけではなく、実践的な知識を習得し、経営や企業活動について理解を深めてください。

授業計画

第１回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンス
第２回	組織のイノベーションについて	第 17 回	競争力、ビジネスモデルについて
第３回	文献講読①	第 18 回	文献講読①
第４回	文献講読②	第 19 回	文献講読②
第５回	文献講読③	第 20 回	文献講読③
第６回	文献講読④	第 21 回	文献講読④
第７回	文献講読⑤	第 22 回	文献講読⑤
第８回	文献講読⑥	第 23 回	文献講読⑥
第９回	文献講読⑦	第 24 回	文献講読⑦
第 10 回	文献講読⑧	第 25 回	文献講読⑧
第 11 回	事例発表①	第 26 回	事例発表①
第 12 回	事例発表②	第 27 回	事例発表②
第 13 回	事例発表③	第 28 回	事例発表③
第 14 回	事例発表④	第 29 回	事例発表④
第 15 回	事例発表⑤	第 30 回	事例発表⑤
		第 31 回	

到達目標

① 企業のイノベーション活動について理解する
② 競争力の源泉、ビジネスモデルについて理解する
③ 学術研究を理解し、論理的思考能力、批判的思考能力を鍛える

履修上の注意

・文献購読は、毎回レジュメ（該当部分の要約とコメント）を作成してください。
・事例発表は、自分の興味ある製品・サービス、ビジネスモデルについて調査し、発表することを求めます。
・演習のディスカッションは、自分の意見を積極的に発表する訓練の場としてください。
・企業訪問、夏合宿、合同ゼミ、ビジネスコンテストなど、積極的に参加してください。

予習・復習

次回の文献購読、事例発表についてしっかりと事前準備をして演習に参加してください。また、演習で学んだ理論について復習してください。

評価方法

演習での発表内容、ディスカッションへの参加状況など、総合的に評価します。

テキスト

文献は、講義初回時に決めます

専門演習　　秋場 勝彦

授業概要

本演習は、地域経済（学生が関心のある地域）の課題解決のために課題の本質を深く研究する演習講座です。
例えば北海道北広島市は赤毛米、愛知県大府市は音楽による「まちづくり」を目指しています。その中心となるテーマが異なるのは地域によって歴史や文化が異なるからです。したがって、地域経済の課題解決を画一的なレベルではなく、その背後の歴史的・文化的なレベルから多面的に分析することが重要です。この考え方に賛同できる学生を求めます。なお、事前的な知識や能力は求めません。情熱とやる気のある学生を求めます。つまり、演習のテーマに関し共感や意欲・関心を抱く学生を募ります。その際に、意欲がある学生を最優先します。
地域経済の課題の本質がわかるには将来世代の視点を持つことが必要であり、その役割を担ってくれる最善の方法がフューチャー・デザインに学ぶことだと考えます。私が訴えるフューチャー・デザインの意義に共感し、目の前の現象のみにとらわれて形無しになることなく、分析の枠組みを知ろうとする学生を求めます。
協働できるように春期を中心に大学が実施するイベントや活動に積極的に参加・協力します。地域経済の現状や課題を客観的に捉えることができるように夏休みにフィールドワークを行います。北海道北広島市、愛知県大府市、または岩手県矢巾町でのフィールドワークを予定しております。
３年次はフューチャー・デザインの準備として、当該地域の現状（プレゼント・デザイン）とその歴史的経緯（パスト・デザイン）について学生にプレゼンテーションしてもらいます。

授業計画

第１回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンス
第２回	オープンキャンパススタッフ：登録	第 17 回	プレゼン①：インターンシップ参加報告
第３回	資格取得講座：受講計画・申込	第 18 回	プレゼン②：インターンシップ参加報告
第４回	体育祭：紹介・参加申込	第 19 回	プレゼン③：インターンシップ参加報告
第５回	プレゼン①：「私は～です。」×20	第 20 回	プレゼン④：インターンシップ参加報告
第６回	プレゼン②：「私は～です。」×20	第 21 回	プレゼン①：プレゼント・デザイン
第７回	プレゼン③：「私は～です。」×20	第 22 回	図書館ツアー：JapanKnowledge Lib
第８回	プレゼン④：「私は～です。」×20	第 23 回	プレゼン②：プレゼント・デザイン
第９回	プレゼン①：インターンシップの計画	第 24 回	プレゼン③：プレゼント・デザイン
第 10 回	プレゼン②：インターンシップの計画	第 25 回	プレゼン④：プレゼント・デザイン
第 11 回	ゼミ合宿①：行程表の作成	第 26 回	プレゼン①：パスト・デザイン
第 12 回	ゼミ合宿②：飛行機のチケットの手配	第 27 回	プレゼン②：パスト・デザイン
第 13 回	ゼミ合宿③：ホテルの予約	第 28 回	プレゼン③：パスト・デザイン
第 14 回	ゼミ合宿④：レンタカー等の準備	第 29 回	プレゼン④：パスト・デザイン
第 15 回	ゼミ合宿⑤：行程表の完成	第 30 回	動画の視聴：未来人になりきる
	夏休みの課題：インターンシップへ参加	第 31 回	春休みの課題：50 年後を考える

到達目標

・地域経済への関心が固まり、地域経済の現状や課題を客観的に捉えることができる。
・要約および問題提起を含む報告資料を事前に作成することができる。
・双方向型のプレゼンテーション（活発なディスカッション）ができる。

履修上の注意

・この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行います。特別講師等を外部から招聘する場合があります。費用負担が生じる活動があります。
・シラバスの内容は、参加者の人数や受講学生の関心などに応じて調整・変更される場合があります。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合があります。遅刻３回で欠席１回分にカウントします。
・必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。参考書は難しい部分もありますが、議論しながら理解できるように指導します。

予習・復習

予習・復習および発展学習を兼ねて参考書をよく読むこと。

評価方法

発表 50%、演習などへの取り組み姿勢 50%で評価します。また、毎回出席を取ります。

テキスト

・参考書名：フューチャー・デザイン
・著 者 名：西條辰義
・出版社名：日本経済新聞出版
・出版年月：2024 年７月　ISBN：978-4-296-11558-7　本体 3,800 円＋税

専門演習　　水野 はるな

授業概要

本演習は、スポーツ政策、スポーツ産業振興の観点から、スポーツ文化の醸成、運動スポーツに関わる課題の解決、運動スポーツを活用した社会課題の解決に関した新しいビジネスモデルの提案し、その成果をスポーツ政策学生会議（Sport Policy for Japan：通称 SPJ）にて発表することを第一の目標としています。学生にはアクティブに取り組むことを求めます。
また、後期の後半は、卒業論文の執筆に向けて、興味関心のあるテーマを見つけ、テーマに関する論文を探し、ゼミ内にて抄読会を行います。春休みには緒言の執筆に入るため、その準備も行います。

授業計画

第１回	前期オリエンテーション	第 16 回	後期オリエンテーション
第２回	グループ・テーマ決め	第 17 回	要旨・プレゼン資料の提出
第３回	テーマに関連する資料集め	第 18 回	リハーサル
第４回	ディスカッション	第 19 回	※SPJ への参加（10 月中旬）
第５回	フィールドワーク	第 20 回	※SPJ への参加（10 月中旬）
第６回	プロジェクトの立案①	第 21 回	スポーツ大会の計画
第７回	プロジェクトの立案②	第 22 回	スポーツ大会の実施
第８回	要旨・プレゼン資料の作り方	第 23 回	論文のテーマ決め
第９回	要旨・プレゼン資料の作成①	第 24 回	論文の書き方
第10回	要旨・プレゼン資料の作成②	第 25 回	論文の探し方
第11回	要旨・プレゼン資料の作成③	第 26 回	抄読会①
第12回	※浦和レッズのボランティア参加	第 27 回	抄読会②
第13回	※スポルテックへの参加	第 28 回	抄読会③
第14回	ゼミ合宿の準備①	第 29 回	抄読会④
第15回	ゼミ合宿の準備②	第 30 回	緒言の提出

到達目標

本演習は、以下の２点を到達目標とします。
・グループで共同研究をし、発表することができる。
・卒業研究のテーマを見つけ、テーマにまつわる論文を他者に説明することができる。

履修上の注意

・SPJ に参加するため、グループのメンバーと協力し準備を進めていきます。授業を欠席すると、他の学生へ迷惑がかかるため、**毎回の授業に必ず出席してください**。無断欠席は厳禁です。やむを得ない場合は欠席（または遅刻）をする場合は、必ず水野まで連絡をすること。
・学外にて活動を行うことがあります。授業時間以外の活動かかる費用（交通費等）は原則自己負担とします。スケジュール管理もできるようにしてください。また、学外活動は授業時間に振り替えます（ゼミ合宿は除く）。
・シラバスの内容は、参加者の人数や進捗状況に応じて調整・変更されることがあります。
・水野が担当している専門科目のうち、２科目以上の単位修得をしていることが望ましい。

予習・復習

予習：必要な資料を収集する。 スケジュール管理をしっかり行うこと。
復習：ディスカッション、助言等を踏まえて修正をする。次回の内容に向けて準備をする。

評価方法

SPJ への取り組み（グループ活動）…30 点、SPJ の要旨・プレゼン…30 点、SPJ への参加…20 点、学外活動 10 点、抄読会への参加…10 点の計 100 点満点で評価をする。

テキスト

・テキストの購入はない。参考文献は必要に応じて授業内で提示する。
※スポルテック 2025　7/30（水）～8/1（金）の中の１日　https://sports-st.com/
SPJ 公式サイト（2024）https://sites.google.com/view/spj2021/

専門演習　　平田 礼王

授業概要

本演習では、１年間かけて「東南アジア経済」と「環境経済・環境経営」の２つをテーマについて、総合的な知識を深めていけるよう指導します。その学修の過程で、①受講生自身が自身の関心を見つけ、②卒業論文の作成にむけた基礎を養成し、③卒業論文のテーマを大まかに決めていきます。

各回のゼミでは、ゼミ生全員がテキストの指定箇所を事前に読んできて、事前に割り振られた担当の学生が報告資料を作成したうえで発表します。その内容について全員で議論する形で進めていきます。テキスト輪読後、課題レポートを作成して提出してもらいます。テキストの輪読以外にも、受講生は自身が気になったニュースを紹介してもらいます。演習科目ですので、毎回主体的な授業参加が求められます。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業方法など）	第 16 回	テキスト②第３章：排出量データ
第 2 回	テキスト①第１章：(pp.3-32)	第 17 回	テキスト②第４章：世界のトレンド
第 3 回	テキスト①第１章：(pp.33-52)	第 18 回	テキスト②第５章：新しい金融
第 4 回	テキスト①第２章：(pp.53-83)	第 19 回	テキスト②第６章:カーボンクレジット
第 5 回	テキスト①第２章：(pp.84-94)	第 20 回	総合討論②
第 6 回	テキスト①第３章：(pp.95-121)	第 21 回	テキスト③第１章：循環経済
第 7 回	テキスト①第３章：(pp.122-132)	第 22 回	テキスト③第２章：便益と費用
第 8 回	テキスト①第４章：(pp.133-145)	第 23 回	テキスト③第３章：効率性と公平性
第 9 回	テキスト①第４章：(pp.146-164)	第 24 回	テキスト③第４章：経済的誘引
第 10 回	テキスト①第５章：(pp.165-178)	第 25 回	テキスト③第５章：拡大生産者責任
第 11 回	テキスト①第５章：(pp.179-190)	第 26 回	テキスト③第６章：食品廃棄物問題
第 12 回	テキスト①終章：(pp.191-205)	第 27 回	テキスト③第７章：プラスチック問題
第 13 回	総合討論①	第 28 回	テキスト③第８章:持続可能な循環経済
第 14 回	テキスト②第１章:サステナブルな未来	第 29 回	総合討論③
第 15 回	テキスト②第２章：環境経営	第 30 回	１年間のまとめ
		第 31 回	課題レポートの提出

到達目標

- 「東南アジア経済」と「環境経済・環境経営」についての基本的な考え方を適切に理解できる。
- 報告資料を適切に作成し、プレゼンテーションを実施することができる。
- 各回で取り上げるテーマについて、自らの意見を表明して、有意義な議論ができる。
- 卒業論文のテーマを大まかに決めることができる。

履修上の注意

- 「アジア経済論」も同時に履修すると好ましい。
- 担当部分について報告資料を事前に作成する必要がある。
- 予習、復習を行い、議論に積極的に参加すること。

予習・復習

テキストの指定された箇所を事前に読んで理解するとともに、各回のゼミ終了後に授業内容を復習してください。

評価方法

担当部分の発表 30%、各回の議論への貢献度 30%、課題レポート 40%

テキスト

・教科書名：①『アジア経済とは何か』／②『環境とビジネス―世界で進む「環境経営」を知ろう』
　　③『循環経済入門―廃棄物から考える新しい経済』
・著 者 名：①後藤健太／②白井さゆり／③笹尾俊明
・出版社名：①中公新書／②岩波新書／③岩波新書
・出 版 年（ISBN）：①2019 年 12 月（978-4-12-102571-5）
　　②2024 年 7 月（978-4-00-432022-7）
　④ 2023 年 9 月（978-4-00-431987-0）

専門演習　　宮﨑 浩一

授業概要

本演習は、（１）統計学の基礎を身に着けて統計検定３級を取得すること、（２）金融・商品市場の変動要因について自ら考えられる力を身に着けること、を目的として指導する。具体的な学習内容は、（１）統計検定３級・４級公式問題集を各自が解てくる、各回の担当者がレジュメを作成のうえ解説を行い、それを受けて参加者で質疑応答を行う形式をとる。（２）日本、米国、インドの金融市場（株式、金利）、ドル円為替レート、金価格に関する日次の変動を EXCEL で記録したうえでグラフ化して変動要因を日経新聞やニュース、専門雑誌などを参照しつつコメントし、参加者で討論する。そのなかで、自ら興味のある研究テーマを見つける。

授業計画

第１回	データの種類・標本調査	第 16 回	確率、討論１５
第２回	実験、討論１	第 17 回	確率分布（１）、討論１６
第３回	統計グラフ（１）、討論２	第 18 回	確率分布（２）、討論１７
第４回	統計グラフ（２）、討論３	第 19 回	統計的な推測（１）、討論１８
第５回	統計グラフ（３）、討論４	第 20 回	統計的な推測（２）、討論１９
第６回	時系列データ（１）、討論５	第 21 回	発展演習（１）、討論２０
第７回	時系列データ（２）、討論６	第 22 回	発展演習（２）、討論２１
第８回	時系列データ（３）、討論７	第 23 回	発展演習（３）、討論２２
第９回	データの代表値、討論８	第 24 回	発展演習（４）、討論２３
第 10 回	データの散らばり（１）、討論９	第 25 回	発展演習（５）、討論２４
第 11 回	データの散らばり（２）、討論１０	第 26 回	発展演習（６）、討論２５
第 12 回	データの散らばり（３）、討論１１	第 27 回	発展演習（７）、討論２６
第 13 回	データの散らばり（４）、討論１２	第 28 回	発展演習（８）、討論２７
第 14 回	相関と回帰（１）、討論１３	第 29 回	発展演習（９）、討論２８
第 15 回	相関と回帰（２）、討論１４	第 30 回	発展演習（１０）、討論２９
		第 31 回	期末試験（レポート提出）

到達目標

・統計知識は、統計検定３級の取得を到達目標とする。
・金融・商品市場データを日次で１年間ほど追いかけることで、マーケット感覚を身に着けることができる。
・レジュメを適切に作成のうえ発表し、討論を積極的に行うことができる。
・上記の目標到達を目指す過程で、自ら興味のある研究テーマを見つけることができる。

履修上の注意

・毎回必ず参加して欲しい。
・演習は参加型授業なので、レジュメの準備、発表、質疑応答、討論を積極的に行って欲しい。
・日経新聞の金融市場欄などから自ら興味のある研究テーマを見つけて欲しい。

予習・復習

・毎回の演習問題を予め解いてきて、ゼミ終了後は、完全に正解できるまで復習する。
・自らが担当した金融・商品市場に関して、討論を経て学んだことをメモのうえレポートを作成する。

評価方法

統計学のレジュメ作成、発表、質疑応答（４０%）、金融・証券市場のグラフ・コメント作成、発表、討論（４０%）、ゼミでの積極性（２０%）

テキスト

・教科書名：統計検定３級・４級 公式問題集 CBT 対応版
・著 者 名：日本統計学会編
・出版社名：実務教育出版
・出 版 年（ISBN）：978-4-7889-2048-4 C3040

専門演習　　伊藤 祥司

授業概要

この演習では「経済・経営学に現れる数理モデル」に焦点を当て、その基礎となる数学について深く理解し、経済・経営学の数理的側面に関する考察やコンピュータを利用した計算方法を習得するよう指導します。本演習では数理とコンピュータを用いた計算方法に主眼をおいており、ミクロ経済学やマクロ経済学はそれらの応用問題という位置付けとして両経済学自体の議論は必要最低限に留めます。しかしながら、ここで考究する数学的議論とコンピュータを用いた計算方法自体は、実社会に現れる様々な数理的問題の解決手段となり得ます。

授業計画

第１回	オリエンテーション	第 16 回	消費者行動
第２回	経済数学の基礎	第 17 回	消費者行動の数理的考察
第３回	微分と積分に関する計算	第 18 回	生産者行動
第４回	微分と積分に関するツール利用	第 19 回	生産者行動における数理的考察
第５回	微分と積分における数学的考察	第 20 回	不完全競争
第６回	多変数関数の微分に関する計算	第 21 回	不完全競争における数理的考察
第７回	多変数関数の微分に関するツール利用	第 22 回	市場機構と最適資源配分
第８回	多変数関数の微分における数学的考察	第 23 回	市場機構と最適資源配分の数理的考察
第９回	行列に関する計算	第 24 回	ミクロ経済学とマクロ経済学の数理
第 10 回	行列に関するツール利用	第 25 回	数列のマクロ経済学への応用
第 11 回	行列における数学的考察	第 26 回	線形方程式のマクロ経済学への応用
第 12 回	行列の固有値に関する計算	第 27 回	比較静学分析
第 13 回	行列の固有値に関するツール利用	第 28 回	経済動学の差分方程式モデル
第 14 回	行列の固有値における数学的考察	第 29 回	経済動学の微分方程式モデル
第 15 回	前半のまとめ	第 30 回	全体のまとめ
		第 31 回	総合レポート提出

到達目標

● 経済・経営学に現れる数学に関する理解を深め、　経済・経営学の数理的側面に関する考察やコンピュータを用いた計算ができる。
● 資料の担当部分を的確に要約した発表資料（レジュメやスライド）を作成できる。
● 資料についての発表、およびディスカッションや意見交換ができる。

履修上の注意

この演習は Python でのプログラミングができる人（例：「プログラミングⅠ・Ⅱ」を履修した人、履修中である人）を対象としています。また「データサイエンス」および全学共通科目の「数学（線形代数基礎）」「数学（解析基礎）」を履修したか履修予定である必要があります。演習は教室でノート PC を用いて行います。そのため、各自のノート PC を持って来て下さい。

予習・復習

予習は、次回に議論する文献の該当項目の内容を理解してきて下さい。発表者は担当部分についてしっかりと事前の発表準備をしてください。
復習は、演習で学んだ理論とコンピュータを用いた実践方法について復習してください。

評価方法

レジュメの作成・発表内容：50%
レポート課題：40%　（第 31 回の総合レポート以外にも数回のミニレポート課題を課します）
ディスカッションへの貢献：50%

テキスト

・教科書名：はじめよう 経済数学
・著 者 名：浅利一郎、山下隆之
・出版社名：日本評論社
・出 版 年（ISBN）：2003 年（978-4-535-55329-3）

専門演習　　中沢 浩志

授業概要

本演習では、様々な資産のキャッシュフローによる価値評価を演習により習得することを目標とします。まず、割引率、キャッシュフロー（またはペイオフ）、現在価値という基本的な概念をレビューした後、個々の資産の評価に進みます。もっとも単純な債券評価から株式評価、不動産価値を経て、実際の財務諸表から得られるデータによる企業評価に進みます。最後に、オプションの基本的な評価もできることを目指します。オプションは保険としてだけでなく、その考え方は実経済のみならず社会生活においても有用です。本演習で使う数学的知識について、高校レベルの内容は基本的な統計や数列の計算式等にできるだけ限定し、その他は期待値や分散の計算を含む基本的な数学で対応できるよう対応します。レベルに応じて柔軟な指導します。

授業計画

第１回	オリエンテーション	第 16 回	企業価値の評価１
第２回	キャッシュフローの理解１	第 17 回	企業価値の評価２
第３回	キャッシュフローの理解２	第 18 回	企業価値の評価３
第４回	数学の復習１	第 19 回	企業価値の評価４
第５回	数学の復習２	第 20 回	企業価値の評価５
第６回	数学の復習３	第 21 回	オプションの復習１
第７回	現在価値の理解と評価１	第 22 回	オプションの復習２
第８回	現在価値の理解と評価２	第 23 回	オプション価値の評価１
第９回	債券価格の評価１	第 24 回	オプション価値の評価２
第 10 回	債券価格の評価２	第 25 回	オプション価値の評価３
第 11 回	株式価格の評価１	第 26 回	リアルオプションの理解１
第 12 回	株式価格の評価２	第 27 回	リアルオプションの理解２
第 13 回	不動産価値の評価１	第 28 回	リアルオプションの評価１
第 14 回	不動産価値の評価２	第 29 回	リアルオプションの評価２
第 15 回	不動産価値の評価３	第 30 回	価値評価のまとめ
		第 31 回	期末試験

到達目標

・不動産、企業評価、基本的なオプションの価値評価が自力でできる。
・数字でモノを評価し、その価値を判断できる基礎的な力を習得できる。

履修上の注意

・金利、配当、債券、株式、不動産、財務諸表、の基本的な知識を前提とします。オプションについては、事前に基本的仕組み自体だけは学習しておいてください。（評価モデルや高等数学の算式は不要）。
・エクセルが使える PC が必要です（他の表計算ソフトでも構いませんが、自身で対応してください）。
・エクセルの計算ツールの該当個所は演習の進行度合いに合わせて自習してください。わかりやすい学習教材は容易に入手可能ですが、当方でも必要に応じてサポートします。
・各回の内容を十分理解して進めることが不可欠なので、わからないことは質問をすることが大切です。

予習・復習

ほぼ毎回課題を出すので、完了させて演習に臨んでいただきたい。

評価方法

課題提出と授業態度 70%、期末試験 30%とします。

テキスト

当方で用意します。

専門演習　　田邊 勝義

授業概要

本授業では、卒業研究にスムーズへ移行できるように、先ず、ゼミのスタイルを学び、文献調査、雑誌等を読み、各自の研究分野の常識を身につけるように指導します。次に、学生には、C and/or JAVA のプログラミングスキルを身に付けるように演習を行う。後半には、人工知能（AI）技術を使ったデータサイエンスの演習や最近の生成 AI 技術を利用した、演習を実施し、最新の技術動向を肌で感じます。
コンピュータの基礎技術や情報通信技術が企業や社会でどう活用されているかの事例を通して、今後の仕事の有り様と将来の動向についてグループでディスカッションします。
将来の４年での研究テーマ決定のため、調査研究を行い、グループディスカッションを通じて、自分の意見を他の人に伝える練習を行います。

授業計画

第１回	ゼミの進め方の理解、自己紹介	第 16 回	研究倫理（剽窃・盗用等）に関する確認
第２回	文献調査の仕方、研究の進め方を指導	第 17 回	卒業研究計画の策定
第３回	JAVA の環境構築と演習	第 18 回	卒業研究テーマの検討、進捗状況報告
第４回	JAVA の演習１	第 19 回	文献調査、卒業研究の詳細計画策定
第５回	JAVA の演習２	第 20 回	文献調査リストの作成と内容整理
第６回	JAVA の演習３	第 21 回	文献調査結果の発表
第７回	JAVA のミニ成果を発表	第 22 回	研究テーマ課題の掘り起こし
第８回	夏季インターンシップについて	第 23 回	研究テーマのディスカッション
第９回	内定取得先輩からの就職活動体験談	第 24 回	研究テーマの具体化
第 10 回	C++の環境構築整備と演習	第 25 回	仮の研究テーマを発表
第 11 回	C++の演習１	第 26 回	研究テーマの具体化 or 再検討
第 12 回	C++の演習２	第 27 回	研究テーマの内容から研究計画の策定
第 13 回	C++の演習３	第 28 回	来年の研究テーマ発表会
第 14 回	C++のミニ成果を発表	第 29 回	受けた指摘を基に微調整
第 15 回	まとめ(演習状況の発表)	第 30 回	まとめ（４年生に向けた抱負を発表）

到達目標

(1)各自の研究分野の用語に慣れることができる。
(2)自分の研究についてイメージを持ち、行いたい分野の内容を他人に説明できる。
(3)プログラミングスキルの習得ができる。

履修上の注意

授業に出席し、状況報告を適宜行い、研究を進捗させるように努めてください。
調査・実験等でアンケートやデータ収集を行う際には、研究倫理および対象者への感謝と礼節をわきまえて行動するようにしてください。」
※シラバスはクラスの状況、講義の進行状況によって変更することがありますので、予めご理解下さい。

予習・復習

文献調査、インターネットや本を基に調べた内容をスクラップ＆ビルドしながら、調査内容を深めるようにしてください。

評価方法

授業への取り組み(40%)、研究計画の策定(30%)、成果発表）（３０％）で
評価します。

テキスト

オリエンテーション時に指定します。